

## 支援会員 申込書

ふりがな

お名前

ご住所 〒□□□-□□□□

電話番号 (日中、連絡のつく番号をお書きください)

( ) -

mail-address

@

支援会費口数

口

支援会費総額

円

### ■お問い合わせ先

ちひろ美術館・東京 〒177-0042 東京都練馬区下石神井 4-7-2

TEL. 03-3995-0772

安曇野ちひろ美術館 〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原

3358-24 TEL. 0261-62-0773

<http://www.chihiro.jp/>

## お願い

ちひろ美術館は、「子どもの幸せと平和」「絵本文化の発展」という二つの理念を掲げて活動しています。

絵本は、言葉や文化、国や民族の違いを超えて、0歳から100歳までが楽しめる文化財です。絵本が、世界中で未来を担う子どもたちを心豊かに育んでくれることを願って、私たち、ちひろ美術館は日々活動をつづけています。

ちひろ美術館を支えるメンバーに加わってくださることを心からお願いいたします。

### ■支援会費の使途

世界的にも散逸しやすい絵本原画の収集・保存・研究・展示公開、並びに、絵本の普及や国内外での絵本文化支援の活動等に充当されます。

### ■募集要項

募集対象	個人
支援会費	一口3000円(一口以上)
支援会費の取り扱い	寄付金

(但し、現時点では税制上の優遇措置はありません。)

### ■ご寄付いただいた方々へ

- ・財団法人いわさきちひろ記念事業団(ちひろ美術館)支援会員証と財団理事長の山田洋次と両館館長の黒柳徹子から、お礼のカードをお届けします。
- ・展覧会のご案内や解説を掲載した「ちひろ美術館だより」をお届けします。
- ・各館にて、1年間に一度、活動報告会を行います。
- ・2口以上ご寄付いただいた方には、両館共通で入館が無料となる「入館パス」を差し上げます。

■期間 入会月より1年間(翌年の同月末日迄)

### ■入会手続き

美術館での入会 本案内書の申込書に会費を添えて、美術館の受付窓口にお持ちください。

郵便振込による入会 郵便局にて振込みを行ってください。

【振込み先】 口座記号番号 00180-2-385973  
口座加入者名 財団法人いわさきちひろ記念事業団  
(振込手数料はご負担をお願いします)

お問い合わせ先に、お申し込いただければ、規定の郵便振込み用紙をお送りします。

## 支援会員制度のご案内



あなたの力で、

ちひろ美術館を支えてください。



## 財団法人いわさきちひろ記念事業団と

### ちひろ美術館（東京・安曇野）

「いわさきちひろ記念事業団」は、絵本画家・いわさきちひろ（1918-1974）の没後2年目の1976年に、遺族から、ちひろの全作品、資料ならびに美術館建設用地等の寄贈を受け、ちひろの業績を記念し、絵本等の文化の発展に寄与する活動等をおこなうことを目的として設立されました（財団法人認可は1977年11月）。

1977年9月には、ちひろの自宅兼アトリエ跡に、「いわさきちひろ絵本美術館」（現ちひろ美術館・東京）を開館し、ちひろの絵にいつでも出会える場として、また、身近に絵本や絵本の原画に接することができる絵本の専門美術館としての活動をはじめます。

散逸しやすい絵本原画を、人類の大切な文化遺産の一つとして位置づけ、世界の絵本画家の作品収集・公開・保存・研究に努め、1997年には、ちひろの作品とともに、世界の絵本画家の作品を恒常的に見ることができる安曇野ちひろ美術館を開館（2012年12月現在、ちひろ作品約9,400点の他に、32カ国200人の画家による17,000点を収蔵）。

2004年からは、代表作を高精度のデジタル・アーカイブスによる複製として再現し、原画での展覧会が困難な地域・施設でも、「ちひろ展」を開催。中国、ベトナム、韓国、台湾をはじめとしたアジアの国々で、ちひろと絵本文化の普及支援活動を行っています。

2005年7月からは、子どもたちが訪れやすい場所にと、高校生以下の入館料を無料にしました。ちひろと世界の絵本画家たちの作品を通して、異文化に対する相互理解とともに、やさしさや、美しいものを感じる豊かな心が育まれる場となればと願って活動しています。



ちひろ美術館・東京



安曇野ちひろ美術館

## 理事長あいさつ

練馬区の住宅地のなかに、遠慮がちにひっそりと建っている「ちひろ美術館・東京」と、北アルプスを望む広々とした高原にゆったりと屋根を拡げる「安曇野ちひろ美術館」。このきわめて対照的な風景のなかの二つの建物が、私たちの財団が運営する「ちひろ美術館」です。

ぼくには、いわさきちひろの柔らかな絵は、か弱い少年や少女、くじけそうになる弱い人間たちを、あらゆる意味での「暴力」からかばおうとしているように感じられます。雨上がりの水たまりに映る青い空を見てすがすがしい気持ちになったり、名も知らぬ小さな草花の美しさに感動したり、ありとあらゆる生命をいとおしく思う、人間が人間であることのアカシであるような柔らかな感性——ちひろは、それを断固として守りつづけた人だと思えます。

月に一回か二回でいい、家族や恋人たちが連れ立って美術館に出かけて絵を見ながらゆったりと時間を過ごす、そんなことが日本人の暮らしのなかの習慣になればどんなにいいだろう、ぼくたちの国がそのような穏やかで平和な国であって欲しいと思います。ちひろの思いを大切に守りながら、われわれは美術館活動を推し進めていきます。ちひろ美術館を愛してくださるみなさん、これからもどうかよろしくお願ひします。

財団法人いわさきちひろ記念事業団

理事長 山田 洋次



## 館長あいさつ

子どもが大好きで、どの子にも幸せになってほしいと願い、子どもを描きつづけたちひろさん。そして、絵本のなかに、いまの日本から失われた、いろいろなやさしさや美しさを、描きたいと言っていらしたちひろさん。

ちひろさんの亡くなった3年後の1977年に、東京の練馬区下石神井の自宅あとに、「いわさきちひろ絵本美術館」（現ちひろ美術館・東京）をつくりました。「子どもって、こんなに可愛い」「絵本の絵には、こんなにすばらしいものがあるの」、ということを知っていただきたくて。

私たちは、ちひろさんの絵だけでなく、世界で活躍する絵本画家の絵を、次の世代、その次の世代、もっと先の世代にまで伝えることができたらと考えて、集めてきました。

1997年には、ちひろさんと世界の絵本画家の作品を、いつでもいっしょに見ていただけるように、安曇野ちひろ美術館を建てました。

今も、世界には戦火や貧困にさらされる子ども、豊かさのなかで暮らしながら暴力にさらされている子どもがたくさんいます。こんな時代だからこそ、世界中の絵本画家が描いた「やさしさ」「美しさ」を、子どもたちの真っ白な心に、そして、大人の心に伝えていけたら、そんなにうれしいことはありません。

ちひろ美術館（東京・安曇野）

館長 黒柳 徹子

